第４学年１組　図画工作科学習指導案

指導者　　福島　恭子

１．題材名　　わたしのお気に入りの木　　Ａ表現（２）絵に表す

２．題材設定の理由

○　本学級の子どもたちは、図画工作科学習をとても楽しみにしており、意欲をもって活動することができる。図画工作科学習についての意識調査では、２３人中２０人の子どもが「図画工作科の学習が好き」と答えており、その理由として、「世界で一つだけのものができるから」「つくったときに達成感があるから」などを挙げている。図画工作科の時間を自分の思いを表現する時間として認識し、つくり出すことに成就感を味わうことができている。１学期に学習した題材「絵の具で遊んで『自分いろがみ』」では、水彩絵の具を混ぜて色をつくったり、様々な道具を用いて絵の具遊びをしたりする活動を楽しんでいる。活動の過程で、友達の表現のよさや工夫に気付き、「ぼくもその方法でやってみよう」と自分の表現に自然と取り入れたり、友達の作品のよいところを具体的に指し示しながら、言葉で伝えたりすることができる子どもが多い。しかし、図画工作科の意識調査で、６人の子どもが「絵を描くことがきらい」と答えており、理由としては「失敗するから」「絵が下手だから」「絵をかくとわからなくなるから」などがあげられた。その実態を踏まえて、子どもが絵を描くことに意欲的かつ楽しんで取り組む姿を目指したいと考える。

○　本題材は、慣れ親しんでいる筒井小学校に生える木々の中から自分で選んだ「お気に入りの木」を、よく見つめたり、触ってその感触を確かめたりして、木のもつ特徴や幹の感じをとらえ、そこから表したいことを見付けて思いを広げ、色づくりや筆使い、様々な技法を試しながら工夫して表現する活動である。気に入った木を見付けて、表し方を試したり、見付けたりして表すことを通して、自分らしい造形的な表現を追求できるようにすることがねらいである。木の幹・枝の部分は、水彩絵の具などで色づくりや筆使いを工夫しながら描き、葉の部分は既習題材でつくった「自分いろがみ」を使ったり、表現技法を選んで表したりすることとする。このことで、絵を描くことに対する苦手意識を払拭し、表す楽しさを十分に味わわせることができると考える。

３．指導上の着眼

【着眼１】題材設定や展開の仕方の工夫

○　子どもが自分の思いをもって表現に向かうことができるように、題材を「わたしのお気に入りの木」とする。具体的には、「であう」段階で、普段慣れ親しんでいる学校に生えている木々で遊びながら、触る、においをかぐ、遠くから眺める、下から眺めるなど、五感を使って木と触れ合ったり、観察したりする時間を大切にする。その中で、幹の質感や枝の伸び方などの木の特徴や印象から想像を膨らませながら気に入った木を選ぶようにする。木を子どもたち一人一人にとって「お気に入りの木」とするために、その木を選んだ理由を大切にし、木のもつ特徴や印象から想像を膨らませることで、子どもたちの興味・関心を持続させるようにする。そして、木を「見つめる」活動と「想像する」活動を交互に繰り返しながら、「お気に入りの木」への愛着が大きくなるようにする。

○　子どもが、造形活動と鑑賞活動を往還できるように、学習過程において、鑑賞活動を効果的に位置付けたい。「みつける」段階では、表す活動に入る前に様々な技法で表された木の絵を紹介し、

鑑賞する活動を設定する。写実的な表現の「木」や現実とは違うユニークな「木」の絵を全体で鑑賞し、それぞれのよさについて交流することで、自由な発想で「お気に入りの木」を表す意欲を喚起できるようにする。「あらわす」段階では、幹や枝を描く段階と葉を描く段階のそれぞれの中で「鑑賞タイム」を取り入れ、自分の表現を確かめたり、よりよい表現方法を見付けたりできるようにする。「あじわう」段階では、「お気に入りの木展覧会」を開き、表現した「木」の側で、鑑賞会を行い、見方・考え方の広がりに気付いたり、成就感を味わったりできるようにする。

【着眼２】造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

子どもが自分なりの造形的な見方・考え方を働かせて活動することができるように、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から以下のように学習活動を工夫する。

○　「お気に入りの木」を選んだり、自分と他者との思いの違いを知り、思いを広げたりしていくことができるように、五感を使って木を観察した際に感じたことや想像したことを友達と交流し合う場を設ける。　＜「対話的な学び」の視点＞

○　子どもが主体的に「お気に入りの木」を表現する方法を選択することができるように、これまでに経験した様々な表現技法を掲示したり､様々な技法を用いて表現した参考作品を鑑賞したりする。　＜「主体的な学び」「対話的な学び」の視点＞

○　子どもが材料や用具を選びながら交流できるように、材料や用具を置く場、様々な表現技法を試すことができる場を教室の中央に設定する。　＜「主体的な学び」「対話的な学び」の視点＞

○　表したい自分の思いを振り返り、自分の思いと材料や用具、技法とが結びついているかどうか確かめることができるように、自分の思いと選んだ表現方法とを、表現技法を一覧にまとめたものを用いて友達と交流しあう場を設ける。　＜「対話的な学び」「深い学び」の視点＞

○　自分の思いを効果的に表現できているかどうかを確かめたり、友達の表現のよさや工夫からよりよい表現方法を見付けたりできるように、表現の途中で、子どもが互いの技法や作品を見て回る時間「鑑賞タイム」を設け、作品の特徴や表わし方を聞き合うことができるようにする。　＜「対話的な学び」「深い学び」の視点＞

【着眼３】学習評価の工夫

子どもが自分の活動を振り返り、自分の思いを確認したり、思いの変容を捉えたりするためにワークシートに記録できるようにする。また、自分の思いと表現した形や色等を結び付けて捉えることができるように、完成した絵を写真に撮り、ワークシートに書き込むことができるようにして、観察、評価する。

４．特別な教育的支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	番号
自分の思いを表現することが難しい。 表現に対して消極的。	自由にのびのびと表現し、意見を交流しやすい子どもの近くに座席を配置する。また、教師が問いかけながら、感じたことや考えたことを言葉にして表現できるようにする。	① ③
細かな作業が難しい。	大きめの道具を用意する。水の量を調整しやすいように、スポイトを準備する。	②

５．目標

造形への 関心・意欲・態度	○　身近にある木々から表したいことを見付け、「お気に入りの木」を選び、楽しく表現しようとする。
発想や構想の能力	○　「お気に入りの木」を見たり、触れたりしたことから表したいことを思い付くことができるようにする。
創造的な技能	○　水彩絵の具の混ぜ方や筆の使い方など、用具のいろいろな扱い方を試し、表し方を工夫することができる。 ○　様々な表現方法を用いて、自分の思いに合った表現をすることができる。
鑑賞の能力	○　「お気に入りの木」の作品や友達の作品のよさを感じながら見合い、互いの表し方や工夫した点、作品のよさや面白さに気付くことができる。

６．指導計画と評価計画（総時数７時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
であう みつける	１．筒井小に生える木や、特徴的な木の写真を見て、「木」に対して興味をもち、木に実際に触れて、よさを味わいながら「お気に入りの木」を選ぶ。　②	○　旅先で教師が見付けた木を交えながら、筒井小にはたくさんの特徴的な木が生えていることを伝え、その中から「お気に入りの木」を探しに行く意欲を高めるようにする。 ○　遊びの中で、木に触れさせたり、においをかがせたりすることで、木の感触を味わうことができるようにする。 ○　全体でじっくりと校内の木を見て回りながら、それぞれの木のよさを交流した後に、「お気に入りの木」を選ばせるようにする。 ○　選んだ時に感じたことや表したいイメージをワークシートに書かせる。	【関】木を見たり触れたりしながら自分の気に入った木を見付けようとしている。 （行動観察・発言） 【発】木を見たり、触れたりして、思い付いたことから表したいことを構想している。 （ワークシート）
あらわす	**２．自分の「お気に入りの木」に合った表現技法で表す。　④** （１）幹や枝を表す。②	○　幹は水彩絵の具、葉は「自分いろがみ」を使ったり、様々な表現技法を用いたりして表現することの見通しをもたせるために参考作品を提示する。 ○　水彩絵の具の混ぜ方や筆の使い方を工夫して幹を描くことができるように、参考作品を用意したり、重色や混色の感じについて掲示したりする。 ○　自分の思いと表現技法とが結び付いているかどうかを確かめることができるように、表現技法の一覧を用いて友達と交流しあう場を設ける。	【創】水彩絵の具の混ぜ方や筆の使い方など、用具の使い方を色々試し、表し方を工夫している。 （行動観察・作品）

あじわう	（2）葉を表す。　① ＜本時＞ （3）木の周りや想像したことを表す。　① 3．友達や自分が表現した絵を鑑賞する「お気に入りの木展覧会」を開き、学習をまとめる。 ①	○　これまで経験した技法を掲示したり、様々な描画材料を準備したりして、使ってみたい用具を自分で選び、様々な表現技法を用いて葉を表すことができるようにする。 ○　自分の思いを効果的に表現できているかどうかを確かめたり、よりよい表現方法を見付けたりできるように、「鑑賞タイム」を設ける。 ○　実際の木の近くで、自分の気に入ったところをどのように表したのかを発表させたり、友達の作品のよいと思ったところを発表させたりすることで、互いの見方や感じ方を深めることができるようにする。	【創】「お気に入りの木」のイメージに合った表現技法を使って、工夫して表している。 （行動観察・ワークシート） 【鑑】　自分や友達の表現のよさに気付き、互いのよさを認め合っている。 （行動観察・ワークシート）

7．本時の学習　平成３０年９月２８日（金）　　第５校時　　理科室

（1）　主　眼

いろいろな表現技法で「お気に入りの木」の葉を表す活動を通して、自分の木に対する思いに合った表し方を工夫することができるようにする。

（2）　準　備

①　教師　　水彩絵の具、フォーク、割り箸、ビー玉、トレイ、刷毛、筆、ブラシ、ストロー、網、ローラー、スタンピングの用具（スポンジ、ペットボトルキャップなど）、ティッシュペーパー、ためし紙

②　子ども　水彩絵の具、クレパス、ワークシート

（3）　本時でめざす子ども像

既習の表現技法を用いたり、友達や自分の作品と対話したりしながら、自分のイメージに合った表現を主体的にする子ども

（4）　展　開

主な学習活動・内容	○　指導・支援上の留意点　【観点】評価規準（評価方法） ★ 特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援のポイント
1．前時まで表した幹の絵を見て話し合い，本時のめあてを確かめる。 	○　本時の活動について見通しをもつことができるように、前時に話し合った自分の思いを表すための技法を、抽出した子どもの作品を通して紹介する。 ○　自分の思いと用いる技法を関連させることのよさについておさえる。 ○　既習の様々な表現技法を、掲示物を用いて振り返り、「自分いろがみ」を使って葉を付け加えていってもよいことを確認する。

めあて　自分の思いにぴったりの表し方を使って、「お気に入りの木」の葉っぱを表そう。

2．自分のイメージに合った技法を用いて葉を表す。

力強い感じにするにはどうしたらいいかな。

楽しい感じになるように、ビー玉を転がしてたくさんの模様を作って貼ってみよう。

○　初めに使う用具は手元に用意させておき、技法を変えるときは用具コーナーから選ぶことができるようにする。

○　ためし紙を用意し、画用紙に直接表す前に試すことができるようにする。

○　自分の思いをもって、自由に表現している子どもの作品を全体に紹介し、よい点を具体的に話し合いながら賞賛する。

★　手だて①　自由にのびのびと表現できる子どものそばに座席を配置し、参考にできるところを声かけする。

3．自分や友達が表現しているものを見たり、表し方を聞いたりする。

○○さんの表し方、ぼくの木にも使えそうだな。

わたしの表し方に、○○さんの表し方を組み合わせてみようかな。

○　自分の思いを効果的に表現できているかどうかを確かめたり、よりよい表現方法を見付けたりできるように、「鑑賞タイム」を設ける。

★　手だて②　机間指導の際に、自分のイメージに合った技法で表現できるように、大きめの道具を紹介したり一緒に道具を選んだりする。

【創】様々な表現技法を用いて、自分の思いを「お気に入りの木」の葉に表現することができる。（発言・活動・作品・ワークシート）

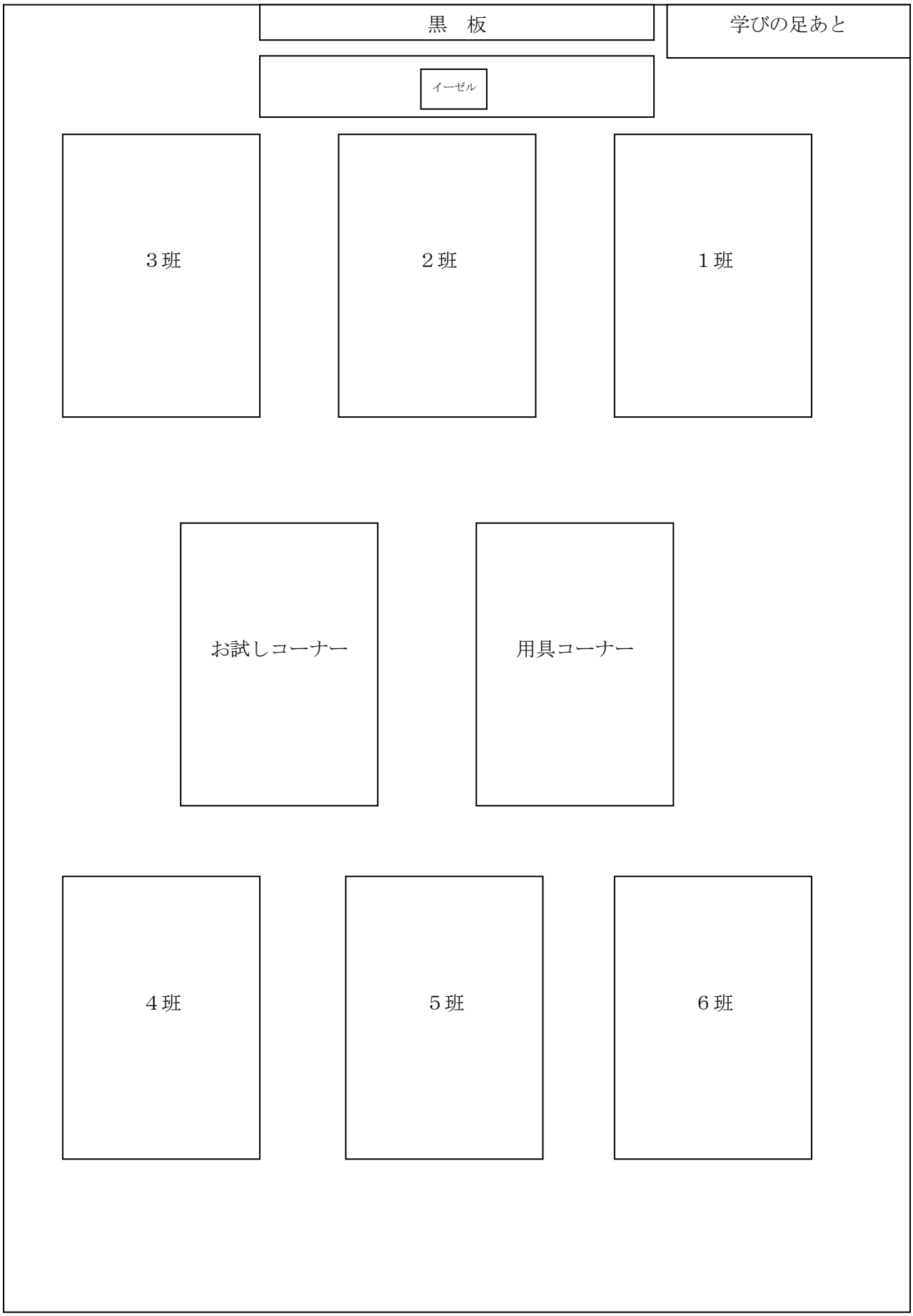
4．表現活動を続ける。

○「鑑賞タイム」を通して、友達との表現の仕方の違いに気付いたり自分の表現を変えたりしている児童を見取り、全体に紹介する。

5．作品をもとに学習の振り返りをする。

○　自分のイメージに合った技法で表現することができたかどうかを振り返り、ワークシートに記録させる。

○　困ったことやもっとしてみたいことをワークシートに書かせ、次時の学習につなげるようにする。

★　手だて③　振り返りの際には、一度考えを声に出して言わせて、整理した上で記述できるようにする。

場の設定